
東京都立皮革技術センターの事業概要

東京都立皮革技術センター

1. はじめに

皮革技術センターは、伝統的地場産業である皮革関連産業の技術向上を目的に昭和58年に墨田区の東墨田に開所しました。(写真1)

主に、皮革製造技術と皮革素材に関する、試験、研究、指導業務を行っています。人員は常勤職員として、事務5名、技術関係10名、これに嘱託の技術指導員4名の体制です。日曜祝祭日と土曜日および年末年始が休業日で、原則として平日の午前9時から午後5時まで開所しています。

以下に業務の概要を紹介します。

2. 試験

依頼に応じて皮革原材料、皮革製品、動物油脂の試験を行い、成績書を発行します。試験は有料で、成績書を発行するまでの日数は試験項目にもよりますが概ね10日間程度かかります。試験項目としては、革の強度や染色堅ろう度、クロム含有量などの化学分析などがあります。最も依頼の多い試験は染色摩擦堅ろう度(いわゆる色落ち試験)で、料金は1,060円です。試験依頼時に料金を頂いております。なお、試験項目の詳細と料金をホームページ(アドレスはP.28にあります。)で紹介しています。

また、特別な試験や実験などを行う場合は個別に相談して行っています。

3. 研究

皮革製造から製品に関わる以下の課題について研究を行っています。

1) 環境に配慮した製革技術の開発ー脱脂法の

検討

目的：なめし皮製造業にとって皮革排水対策が緊急課題ですが、最近、いわゆる環境ホルモンの存在にも注意を払わねばならなくなってきています。そこで、環境に配慮した製革技術を開発します。

内容：環境ホルモンであるノニルフェノール系以外の界面活性剤で効率よく脱脂する方法を開発します。

2) 豚革製造におけるクリーンテクノロジーの開発

目的：皮革業界にとって工場排水の環境への負荷を低減することは緊急かつ重要な課題です。そこで、軽し工程のクリーンテクノロジーを開発します。

内容：硫化物と石灰による従来の脱毛法に替わる脱毛法(過酸化水素等を使用する酸化脱毛法)、アンモニウム塩による従来の脱灰法に替わる脱灰法(マグネシウム塩による脱灰法)などを検討します。

3) 豚皮の食品等への利用

目的：豚皮は日本において唯一自給できる原皮ですが、その約3/4が原皮のまま輸出されています。そこで、豚皮をタンパク質資源として利用し、豚皮の多用途化を図ります。

内容：豚原皮を用い、食品等への用途を開発します。

4) 非クロム革製品の開発

目的：非クロム革はクロム革とは異なった特

性を持っています。非クロム革を用いることにより、従来とは違った雰囲気オリジナリティーのある製品を製造します。

内容：種々の非クロム革製品を試作し、製造条件を検討します。

5) ミンク毛皮の光劣化の原因と予防法の検討

目的：ミンク毛皮は、衣料用素材として安定して供給されファッションの一部として広く着用されています。毛皮の光による毛の変色や劣化が重要な消費者苦情の一つになっています。そこで、光劣化予防法を検討し、問題の解決を図ります。

内容：保管用カバーや紫外線吸収剤入りのヘアケア剤を使用することにより、毛皮製品の光劣化を予防できるかどうか検討します。

6) 革素材の分析方法の検討ーノニルフェノールの測定

目的：近年、化学物質の安全性への関心が高まるとともに、各種化学物質の使用、含有についての規制が強化されています。そこで、革中に含有される化学物質の分析法についての研究を進め、皮革の人体及び環境上の安全性を評価できるようにします。

内容：ある種の非イオン系界面活性剤にはノニルフェノール系のものがあります。そこで革中に含有されるノニルフェノールの定量法を検討します。

7) 非クロム系副産物の有効利用に関する研究

目的：皮革産業で発生する固形廃棄物は、生皮、革屑、排水処理からのスラッジに大別されます。生皮以外の大部分の廃棄物にはクロムが含まれるためにそれらの処分は簡単ではありません。そこで、先ず、これらの廃棄物の有効利用および適正処理方法を検討します。

内容：革屑の油剤吸着剤としての利用法および適正な処理方法として炭化処理を検討します。

4. 指導

実地指導：日常発生する技術問題を解決するために工場に出向き相談に応じています。

開放指導：皮革製造の試験を行うためにドラムなどの機械を備えています。1時間単位などで有料で使用できます。通常の開所時間以外でも使用前日までに予約すれば午後8時まで利用できます。使用できる機械と料金をホームページで紹介しています。

(写真2)

技術相談：電話および面談により皮革に関する技術的な相談に応じます。

5. 研修・講習会

皮革産業技術者研修：皮革製造および皮革製品の基礎知識を修得することを目的として、研修を行っています。講義と実習があり、概ね7月から11月にかけて約25日間開講します。基礎課程と専門課程のコースがあります。ちなみに13年度の専門課程は「非クロム鞣し」と「皮革の観察と試験方法」の2課程を行いました。毎年6月頃にホームページなどで案内をしています。

講習会・講演会：皮革に関連するトピックなどの講習や講演を行います。随時、ホームページなどで開催をお知らせしています。

親と子の革工芸教室：毎年夏休みの時期に親子を対象に簡単な革製品を作る教室を開催しています。東京都や区の広報などで案内をしています。毎年応募者が多く、抽選により受講者を選んでいきます。

皮革及び革製品の展示：展示室およびロビーのショーケースにピッグスキン製品を中心に種々の皮革や革製品などを展示しています。

(写真1)



都立皮革技術センター遠景

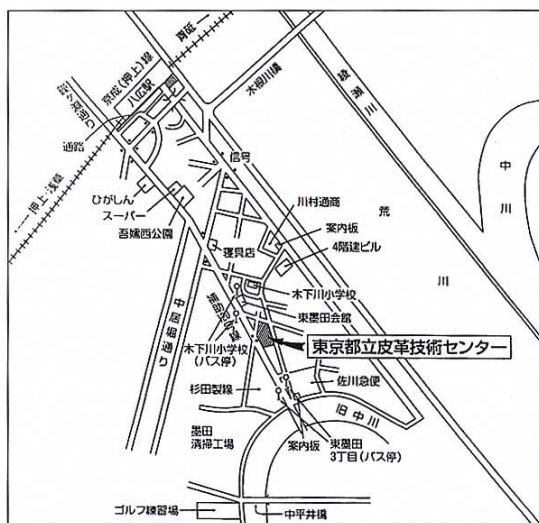
(写真2)



開放指導用の機械／パイプレーション型ステッキング

所在地：〒131-0042 墨田区東墨田3-3-14
電話：(03)3616-1671 Fax：(03)3616-1676

案内図：



京成押上線八広駅下車徒歩15分
JR総武線平井駅より都営バス上23系統浅草寿町または上野松坂屋前行バス10分、東墨田3丁目都立皮革技術センター前下車徒歩3分

ホームページにより事業概要、講習会などをお知らせしています。アドレスは
<http://www.hikaku.metro.tokyo.jp>です。

かわとはきもの No.118

平成13年度

2001年12月28日発行

登録第3号

発行／東京都立皮革技術センター台東支所
〒111-0033
東京都台東区花川戸1-14-16
電話 03 (3843) 5912(代)
印刷／株式会社 第一印刷所
〒110-0003
東京都台東区根岸2-14-18
電話 03 (3871) 4 2 6 1(代)

本紙表紙記事の無断転載を禁じます。



本文は古紙配合率70%再生紙を使用しています